CO・GOの意義と対応

要観察歯（CO（シーオー）=Questionable Caries under Observation）について

1. COの意義

学校歯科保健の分野で要観察歯（CO）が取り入れられたのは、学校を核として、地域の歯科医療機関と家庭が連携を密にして適切な指導・観察・管理を行うことにより、初期のう蝕病変を疑わせる歯が実質欠損（う窩）を伴うう蝕病変へ進行するのを予防することを目的としている。

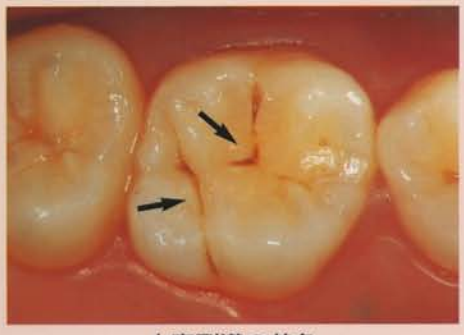
2. COの基準

主として視診にて明らかなう窩は確認できないが、う蝕の初期病変の徴候（白濁・白斑・褐色斑）が認められ、その状態を経時的に注意深く観察する必要のある歯で、具体的には次のようなものが挙げられる。

1. 小窩裂溝において、エナメル質の実質欠損は認められないが、褐色、黒色などの着色や白濁が認められるもの（CO例1、CO例2）
2. 平滑面において、脱灰を疑わしめる白濁や褐色斑等が認められるがエナメル質の実質欠損の確認が明らかでないもの（CO例3、CO例4）
3. 精密検査を要するう蝕様病変のあるもの（特に隣接面）（CO例6）

3. 健康診断におけるCOの症例

CO例1

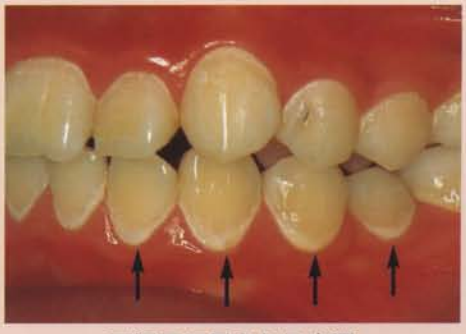


小窩裂溝の着色

CO例2

充填物の周囲に見られる着色

CO例3



平滑面に見られる白濁

CO例4

平滑面に見られる白濁

CO例5

隣接面に見られる白濁

CO例6

隣接面に見られるう蝕様病変（要精検）

4. COのある児童生徒の観察と対応

- 健康診断票には該当歯部、学校歯科医所見欄に補助記号「CO」を記入する。
- 「健康診断結果のお知らせ」には記載するが、治療勧告の対象とはしない。
- 隣接面などう蝕の確認が極めて困難な場合は精密検査を要す。健康診断票の学校歯科医所見欄に「要精検」と記入し、受診を促す。
  ① 当該児童生徒にはCOの部位を認識させ、う蝕にならないように自覚させる。
  ② 歯の清掃や必要に応じて食生活の改善や生活リズムの改善、う蝕予防処置を勧める。
  ③ フッ化物についての正しい知識と、フッ化物配合歯磨剤の使用やフッ化物洗口・塗布による利用法を教える。
  ④ 3～6ヶ月後に臨時健康診断を行い、状況に応じた対策を指示する。良好な状態が保たれれば安易に治療に入らないよう気をつける。

5. COの改善例・進行例

COは適切な指導や定期的な観察を行うことにより、進行の阻止や改善の可能性があるが、それができないとう蝕へと進行する。

※改善例 1　小窩裂溝の着色

学校での保健指導やかかりつけ歯科医でのフッ化物塗布等予防措置を定期的に受けた

8年後
裂溝に変化はなく、う蝕には進行していない

※改善例 2　平滑面の白濁

上下顎前歯の歯頸部付近には、全体的に白濁が見られる

1年後
口腔内環境、生活習慣や食生活の改善により、再石灰化が促進された

7年後
適切な管理を継続することで健全な状態を維持している

※進行例　平滑面の白濁

2|に白濁が見られる

食習慣や生活リズムの改善がなされず、ブラッシング指導やフッ化物塗布等の処置も受けなかった

2年後
21|はう蝕へと進行している

歯周疾患要観察者（GO（ジーオー）=Gingivitis under Observation）について

1. GOの意義

学校歯科保健の分野で歯周疾患要観察者（GO）が取り入れられたのは、歯のみがき方・食習慣を含む生活習慣等が適正でないために起こる歯肉炎を早期に発見し、進行を未然に防ぐとともに、健康な歯肉への回復を目的としている。

2. GOの基準

次のような歯肉の状態をいう。

1. 歯肉に軽度の炎症症候が認められるが、健康な歯肉の部分も認められるもの
2. 歯垢の付着は認められるが、歯石の沈着は認められないもの
3. 歯の清掃指導を行い、注意深い歯みがきを続けて行うことによって炎症症候が消退するような歯肉

3. 健康診断におけるGOの症例

GO例 1

部分的な歯肉炎

GO例 2

萌出時の歯肉炎

健康な歯肉

中学生の健康な歯肉

歯肉はひきしまりピンク色を呈し、
スティップリングが認められる

GO例 3

清掃不良部の歯肉炎

GO例 4

叢生による歯肉炎

4. GOのある児童生徒の観察と対応

- 健康診断票への記入は、「歯肉の状態」の「1」をマークし、学校歯科医所見欄に「GO」と記入する。
- 「健康診断結果のお知らせ」には記載するが、治療勧告の対象とはしない。

① 当該児童生徒に認識させ、歯肉の改善に向けて自覚させる。
② 歯の清掃や必要に応じて食生活の改善や生活リズムの改善の保健指導を行う。
③ 3～6ヶ月後に臨時健康診断を行い、状況に応じた対策を指示する。歯の清掃を適切に行い、歯垢除去を図れば、炎症は改善する。

5. GOの改善例

みがき方を工夫し実践できるよう適切な指導を行うことにより、児童生徒は歯肉の改善状態を自分で確認することができるので、歯や口の健康に関心を持ち、好ましい生活習慣を身につけさせやすい。

※改善例 1

叢生によるGO

12 周囲に歯肉炎が見られる

学校において保健指導を行った

歯肉炎は改善し、一部にスティップリングが見られるようになる

※改善例 2

不潔によるGO

21|12 部の歯肉が赤く腫れている

3ヶ月後
刷掃効果により歯肉が改善されてきた

8ヶ月後
良好な状態を維持している

参考 ZSについて

歯石の沈着は認められるが歯肉に炎症が認められない場合、「歯肉の状態」では「0」をマークし、学校歯科医所見欄に「ZS」と記入し受診を指示する。

ZS症例

CO・GOのねらい

いま、学校歯科保健は、疾病の早期発見やその治療管理への対応から児童生徒が自分の健康を自ら維持管理できる「生きる力」をはぐくむヘルスプロモーションの理念に基づいた対応へと移行しています。

このような「疾病対応から健康対応へ」という考え方において大きな役割を果しているのがCO・GOの検出です。児童生徒は、自分の身体の一部が疾病に侵されそうな状態にあることに気づき、疾病に傾きかけた歯や歯肉の健康を取り戻すために生活習慣を自ら振り返ることで、食習慣や歯みがき習慣などの生活習慣を見直すことができるようになることが大切です。そのことは、まさにヘルスプロモーションの考え方そのものであり、CO・GOのねらいなのです。我々学校歯科医は、CO・GOをそれぞれの児童生徒から見つけ出し、その対応方法を指導する重要な役割を担っています。

学校関係者、学校歯科医、地域の歯科医療機関（かかりつけ歯科医等）は、CO・GOのこのような役割を充分に理解し、お互いの連携を取りながら児童生徒の一人ひとりが行うヘルスプロモーションを支援することが重要です。

■写真提供：宮澤正臣、武井順治、黒岩恭子、山形光孝、土屋俊夫、藤居正博　■発行：社団法人日本学校歯科医会　平成20年3月　※禁無断転載